

平成 28 年度事務事業評価表(一般事業・継続)

No. 48

事務事業名	市史編さん事業
-------	---------

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	総務部		
課名	総務課市史編さん室		
課長名	大野 安生	内線	219
担当者名	片岡 慶子	内線	494

基本目標		人を育むまち
政策	010301	文化の振興と生涯学習の充実
施策		文化財の保護・活用・継承
関連施策		

会計	一般会計	
款	2	総務費
項	1	総務管理費
目	1	一般管理費
事業コード	130000	市史編さん事業

事業類型	4	ソフト事業(任意)
個別計画		
重点事業		

【PLAN(計画)】

対象(者)	誰(何)に対して事業を行うか			市民及び歴史に興味ある者
意図	対象をどのような状態にしたいか			市史は、今後数十年にわたって市の歴史を伝える正史(公式の歴史書)である。市民等が大村市の歴史、文化を理解し、郷土に対する愛着を深めることができるようにしたい。
事業概要	意図を達成するために実施することは何か			大村市の歴史を後世に伝える新たな市史を編さんするため、歴史家や市民有識者による委員会を開催し、執筆者の選定及び執筆項目の検討を行う。また市史編さんに必要な調査及び資料収集を行う。事業期間はおおむね8年とし、「自然・原始・古代」「中世」「近世」「近代」「現代・民俗」の全5編の編さんを目指す。
事業期間	平成 21 年度	～	平成 28 年度	実施方法 直営
根拠法令、要綱等				
国・県補助事業に係る本市単独施策				

【DO(実施)】

指標名(上段:名称/下段:算定式等)		単位	25年度	26年度	27年度	28年度	備考
活動指標	① 委員会等の開催回数	計画値	14	6	5	1	
		実績値	7	10	1		
		達成度	50.0%	166.7%	20.0%		
活動指標	② 調査か所	計画値	22	4	33	15	
		実績値	41	35	29		
		達成度	186.4%	875.0%	87.9%		
成果指標	① 調査資料数	計画値	170	12	260	30	
		実績値	131	492	187		
		達成度	77.1%	4100.0%	71.9%		
	② 編さん数	計画値	1	1	1	1	
		実績値	1	1	1		
		達成度	100.0%	100.0%	100.0%		

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	25,138	20,568	17,113	19,886	0	0	0	0
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他								
一般財源	25,138	20,568	17,113	19,886				
② 人件費(千円)	10,331	9,844	9,169	9,464	事業内容	事業内容	事業内容	備考
職員人数(人)	1.30	1.30	1.30	1.30				第五巻刊行後事務事業終了
時間外勤務(時間)	0	10	0	5				
嘱託等人数(人)	0.00	0.00	0.00	0.00				
フルコスト(①+②千円)	35,469	30,412	26,282	29,350				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

事業の進捗状況 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)	・平成28年3月に第四巻「近代編」を刊行した。 ・第一・二・三巻と同様に第四巻も大村市公式HPでのデータ配信を行っている。 ・平成28年度は第五巻「現代・民俗編」の編集を行っている。
事業が抱える問題・課題等	主に昭和時代の市政に係る行政資料が不足している。

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	市の歴史に関心を持つ市民等の増加は知りたい内容の多様化につながり、約50年前の旧市史では応えられない部分が多くなった。またこの間には近代、現代に係る資料の散逸や記憶を持つ市民の高齢化が顕著に進み、資料、情報の調査、収集が非常に困難になった。したがってそれらに応える市史編さんは、今行う必要がある。						
有効性	【市の関与】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	市史編さんは市の公式記録の作成であり、市が実施しなければならない。						
効率性	【事業成果】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	旧市史刊行後、約50年経過の間には歴史の解明、視点の変化が大きく進んでおり、それらを多数の歴史家が項目別に叙述することによって、旧市史では詳述されなかった事柄を深めたり、扱われなかった事柄を取り上げて、現時点における歴史理解を示すことができる。						
効率性	【施策貢献度】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	市史刊行は市民等が郷土の歴史文化への理解を深め、歴史的価値を有する様々な物、景観、伝統への関心や、大切と思う心を醸成するために大きな効果がある。						
効率性	【コスト】	削減の余地なし	削減の余地あり			該当なし	
	第五巻編さん経費の節減に努める。						
効率性	【負担割合】	見直しの余地なし	見直しの余地あり	該当なし			

※事業類型が1～3に該当する事業については妥当性及び有効性の評価は記入していません。

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性	終了	
--------	----	--

内容 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	現代・民俗編の編集及び印刷、また年度末に編さん、編集委員会を開催する。そのほか資料調査収集及び事務局執筆を行う。
効果 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	現代・民俗編の編さん及び刊行を年次計画に沿って着実に実施できる。

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり		2次評価	対象外	今後の方向性
	終期設定				終期設定	
	意見等				内容	

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。